

第3回世界水フォーラム 「水と交通」テーマ



研究第三部 研究員 松井 潤一

1. はじめに

第3回世界水フォーラムは、京都、大阪、滋賀の3会場で平成15年3月16日～23日の期間中に38のテーマのもと各テーマに関連する351の分科会が開催された。

「水と交通」テーマは、今回初めて取り上げられたメインテーマの一つであり、9つの分科会が開催された。また分科会の開催に先立ち皇太子殿下・同妃殿下並びにオランダ国皇太子殿下のご臨席のもとオープニング全体会合が開催された。各分科会の主催者と分科会タイトルは表-1に示すとおりである。

表-1 「水と交通」テーマ分科会主催者とタイトル

分科会主催者	分科会タイトル
国土交通省Ⅰ（河川局）	防災とレクリエーション
国土交通省Ⅱ（港湾局）	水運と地域振興
オランダ国土交通水管理省、米国防軍工兵隊	水路と交通と総合水資源マネジメント
国際航路協会日本部会：JS-PIANC	持続可能な輸送手段としての水運とその効率の向上
国連教育科学文化機関：UNESCO	内陸水運分野での知識格差の是正
国連アジア太平洋経済社会委員会：UNESCAP	複合一貫輸送における内陸水運の統合
メコン河委員会：MRC	メコン河下流域における内陸水運戦略
国土交通省近畿地方整備局	内陸水運技術の継承と発展
NPO淀川21世紀ビューロー	淀川舟運～茶の道、川の道～

「水と交通」テーマで対象としている内陸水運（内航海運を含む）の包括的な議論は、これまで国際会議の場ではあまりされてこなかった。これは今までの経済成長と陸上交通への偏向が一因している。しかしながら、全世界的にエネルギーや環境問題への関心の高まりから内陸水運の役割が見直されつつある。また日本においても「ゆとり」や「癒し」といった効果を期待して観光事業やレクリエーションあるいは地震時などの緊急輸送手段として内陸水運が活用されつつある。

第3回世界水フォーラムでは、内陸水運に関する

専門家が一堂に会し、それぞれの国や地域の知識や経験を共有することができた。これは内陸水運の発展のための大きな布石の一つとなったことは間違いない。

2. 準備活動

(1) 国内実行委員会

「水と交通」テーマの準備活動は、まず国内実行委員会の立ち上げから始まった。実行委員会の委員長には日本大学名誉教授の三浦裕二氏、顧問に前河川局長の竹村公太郎氏、国際航路協会副会長の野田節男氏の両名を迎え、学識経験者、NPO、舟運事業者、行政担当者の18名で組織した。

実行委員会は3回開催され、2回目の実行委員会は、国外からの分科会参加機関の方を交え準備会合として水フォーラムの開催地でもある大阪で開催した。



写真-1 準備会合の様子

(2) バーチャルフォーラム

バーチャルフォーラムとは、水フォーラムのウェブサイト上に設置されている掲示板形式の会議室で各テーマコーディネータや分科会主催者等が提起する課題に対して全世界から意見や提案が自由に書き込めるものである。「水と交通」テーマでは100件を超える意見や課題が提案され、これらの意見をステートメントとしてとりまとめた。

(3) NPOワークショップ他

「水と交通」テーマのプレカンファレンスの一端として内陸水運に関して積極的な取り組みを行ってい

る全国のNPOの代表者を一堂に介し、それぞれの知識や経験を基にグループディスカッションを行い日本における内陸水運の展開についてNPOからの提案を行った。

また週1回のニュースレターの発信とホームページを開設し「水と交通」について広くPRを行った。

3. 「水と交通」テーマの開催概要

(1) オープニング全体会合

会場：京都国際会館 (KICH) メインホール
日時：平成15年3月17日 12:30~14:30
特別来賓：皇太子殿下・同妃殿下、オランダ国皇太子殿下
議事次第：(司会 見城美枝子)

開会挨拶 国土交通副大臣 中馬弘毅
来賓挨拶 3WWF運営委員会会長 橋本龍太郎
基調講演

オランダ国土交通水管理副大臣
シュルツ・バン・ホーゲン
米国陸軍工兵隊長官 ロバート・B・フラワーズ
国際航路協会会長 ヴァンデン・エーデ
海洋政策研究所所長 寺島 紘士
分科会紹介 見城美枝子

(2) 分科会開催概要

会場：KICH各会議室
日時：平成15年3月18日 8:45~17:15
各分科会のタイトルは、表-1に示すとおりである。各分科会では議長もしくは議長に準ずるチェアマンが議事を進行し、パネルディスカッションや各発表、議論をとりまとめ分科会毎にレポートをまとめた。分科会には世界各地からの参加を得ることができた。以下に参加機関あるいは参加者(国名等)を紹介する。

・アジア開発銀行・ラオス人民共和国・オーストラリア・中華人民共和国・ドイツ連邦共和国・大韓民国・ブラジル連邦共和国・ニカラグア共和国・フランス共和国・ロシア連邦・インド・ヴィエトナム社会主義共和国・ベルギー王国・アメリカ合衆国・カンボディア王国・英国・タイ王国・学識経験者(日本)

(3) クロージング全体会合

会場：KICH ホールA
日時：平成15年3月18日 17:30~19:00
議事次第：(司会：三浦裕二)

議長：アジア開発銀行 地域・持続可能開発局長
ジャンP.M.ヴァンヘーズウィク
開会挨拶 河川局次長 塩島高雄
分科会提言発表 各分科会議長等
意見交換及びステートメント採択
閉会挨拶 大臣官房審議官 馬場耕一

4. 「水と交通」テーマステートメント

「水と交通」テーマでは、国内実行委員会での議論、バーチャルフォーラムでの議論、NPOワークショップ等各地で開催されたプレカンファレンス等の意見を集約し、ステートメント草案を作成した。このステートメント草案と水フォーラム本番の分科会での議論等を反映した形で採択されたステートメント(提案部分)を以下に紹介する。

「水と交通のテーマステートメント」

我々、第3回世界水フォーラム「水と交通」テーマ参加者は、内陸水運が総合水資源マネジメントと総合交通体系の主要構成要素として更に利用されることにより、(1)持続可能な経済発展、(2)交流を通じた伝統文化や技術の発展、(3)繁栄する安全で平和な社会の実現に寄与する、と確信する。我々は内陸水運の価値を適切に評価し、モダルシフトと交通の統合化を推進し、更に発展途上国での“内陸水運プログラム”を支援するイニシアティブを取ることに同意する。この主旨のもと、以下の活動に同意する：

- ・環境にやさしい内陸水運を総合交通体系及び多目的な水資源利用の一要素として位置づけることを推進する。
- ・内陸水運の成功事例、知識、経験を共有するために、知識ベースを構築し、定期的に国際会議を開催する。日本は、他機関と緊密に協調し、先導的な役割を果たす。
- ・人材育成、共同研究開発を推進する。
- ・関連プログラムの合理的、包括的評価の枠組みを構築する。
- ・組織、法、政策面での改善を支援する。
- ・防災、廃棄物リサイクルといった新しい機能を開拓する。

5. おわりに

約6ヶ月という短期間で、第3回世界水フォーラムという国際会議の準備を進めてきましたが、不慣れな部分も多く、国内実行委員の皆様や関係機関の皆様にご迷惑をおかけしたことが多々あったと存じます。この場を借りてお詫び申し上げます。

また、国外からの参加者調整や渡航手続きなど、在外大使館アタッシュェ、専門家の方々に多大なるご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。

「水と交通」事務局として「水と交通」ステートメントが生きたステートメントとなるようバックアップしていきたいと存じます。